

経営協議会の審議状況(平成27年度)

事項	審議日(第○回)	実際の議題名、審議事項名等	備考
①中期目標についての意見に関するものうち、大学共同利用機関の経営に関するもの	第1回	第3期中期目標・中期計画について	
	第3回	第3期中期目標原案及び中期計画案について	
②中期計画に関する事項のうち、大学共同利用機関法人の経営に関するもの	第1回	第3期中期目標・中期計画について	
	第3回	第3期中期目標原案及び中期計画案について	
	第5回	第3期中期計画期間における機能強化について	
③年度計画に関する事項のうち、大学共同利用機関法人の経営に関するもの	第5回	平成28年度年度計画の策定について	
④経営に関する重要な規則の制定又は改廃に関する事項(会計規程、役員報酬規程、職員の給与及び退職手当の支給基準、就業規則、職員の任期等に関する規則、安全管理規則など)	第1回	情報・システム研究機構におけるクロス・アポイントメント制度の制定について	
	第2回	人事院勧告の対応等について	
	第4回	組織運営規則の改正について	
	第4回	就業規則等改正について	
	第4回	研究教育職員の任期に関する規程の改正について	
	第5回	組織運営規則等の一部改正及び制定について	
	第5回	就業規則の改正等について	
⑤平成28年度予算	第1回	平成28年度概算要求について	
	第4回	平成28年度予算編成方針(案)について	
	第5回	平成28年度予算編成方針の改正について	
	第5回	平成28年度機構内予算配分(案)について	
⑥平成26年度決算	第1回	平成26年度決算について	
⑦組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項(自己点検・評価のうち、組織及び運営の状況に関する事項など)	第1回	平成26事業年度に係る業務の実績について	
	第5回	平成26年度評価委員会指摘事項への対応について	
⑧その他大学共同利用機関法人の経営に関する重要事項	第1回	情報・システム研究機構長選考会議委員の選出について	
	第1回	ミッションの確認について	
	第1回	機能強化に向けた施設整備について	
	第2回	規則の改正等について	
	第2回	施設・環境整備計画について	
	第2回	平成27年度補正予算について	
	第4回	機構長選考会議委員の選出について	
	第4回	著作物取扱規程の改正について	
	第4回	共同研究部門規程の制定について	
	第4回	学術指導規程の制定について	
	第4回	キャンパスマスタープラン2016について	
第4回	設備マスタープランについて		

**経営協議会の機構外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組事例**

具体的意見・指摘等	改善状況(改善取組事例)
<p>機構長裁量経費について、「機構長が各研究所に配分している」という表現ではなく、「機構長裁量経費を使って各研究所長に裁量経費を渡している」という表現の方が、外から見て機構長がガバナンスを取れており、機構長あるいは研究所長がリーダーシップを発揮しているという理解が進むのでは。表現の仕方を心がけると良い。</p>	<p>提言のとおり、機構長裁量経費については、「機構長のリーダーシップの下、各研究所長に裁量経費を渡している」と表現する。</p>
<p>シンポジウムの開催は広く取組を一般市民に理解してもらおうということ、また、理科離れが言われている中で、そういう人を引き付けるためにも、もっとこのような活動をもっとやるべきではないか。機構の活動を若者を含む世間一般にアピールし、日本全体のサイエンスマインドをあげるというようなことも大切かと思う。</p>	<p>一般市民への広報活動は機構の重要なミッションの一つと考えており、分かりやすい形でのシンポジウムなどを積極的に行っている。平成26年度においてはシンポジウム10件、講演会・セミナー116件、研究会・ワークショップ1件、などを開催し、延べ10万人を超える参加者があった。このうちとくに、機構シンポジウム(機構本部)、中高生南極北極ジュニアフォーラム(極地研)、国立情報学研究所市民講座(情報研)、公開講演会(統数研)、公開講演会「アキバで遺伝学」(遺伝研)、などは一般の方にも分かりやすい企画を心がけたものである。そのほか、各研究所でオープンハウス、一般公開をおこなって、一般市民や学生の方に興味を持ってもらえるよう努力しており、今後も注力していく所存である。</p>
<p>今後、特に10年の新しい動きにまさに必要とされている機関及び機構だと思うので、ぜひその内外の動きを積極的に反映させつつ、活動を続けていただきたい。</p>	<p>データサイエンスは第4のパラダイムとして国内外の研究機関が本格的に取り組み始めている。ドメイン研究とメソロジー研究の両者を備えた当研究機構の特徴を活かして今後自らの研究だけでなく、他の大学への貢献を強化していきたい。そのためH28年度にはデータサイエンス共同利用基盤施設を設置し、いっそうこの分野の活動を強化する計画である。内外の動向については、やはりH28年度に新設する戦略企画本部で状況把握するとともに、それに基づいた戦略作りを行う計画である。</p> <p>オープンデータが一つの流れになってきているが、研究領域としては生命科学系と地球環境系の二つが先行した形である。当機構はこの二つの領域をともにカバーしているので、これまでの経験・知見を他領域にも展開できるポテンシャルを有していると考えられ、この点にも注力していきたい。</p>
<p>各研究所がオープンにしていっていただくのはもちろん、4つの研究所が融合することで何か新しいことが生まれるのではという期待がある。データサイエンス共同利用基盤というものを整備されるということで、それがコラボレーションやオープン化の良い機会になると思うので、ぜひそれも意識しながら進めてほしい。</p>	<p>データサイエンス共同利用基盤施設では、これまで行ってきたリサーチコモンズ事業で得られた成果をベースにするとともに、新たな研究所間の融合を強力に推進する計画である。また4研究所の融合だけでなく、他の共同利用機関法人や他大学ともコラボレーション、オープン化を図って行きたいと考えている。</p>
<p>各研究所は最先端のことをやっているのを続けていくのが良いが、機構としてやっている今のデータ中心科学のようなものが本当に今のようやり方がいいのかどうかとか、そういうのを一回もう少しレビューをしてみて、次の第3期の中で何を目玉にするのかなど、そういうのを少しやったほうがいいのでは。</p>	<p>新設する戦略企画本部ではご指摘の点も含めて多角的な検討を行う計画である。これまで実施してきたリサーチコモンズ事業などの経験から、これまでの進め方で改善すべき点があるかどうかを検証しつつ、早期に成功事例をいくつか確立して、第3期の中で目玉を作っていくことが重要ではないかと考えている。</p>

**経営協議会の機構外委員からの意見を積極的に取り上げるための体制・取組例等**

各研究所の活動報告を議事に加え、研究所の活動についても活発な意見交換ができるように工夫を行った。